教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第6号(通算143号)
令和８年10月30日
三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ☞



四つ葉学園　令和８年９月７日（月）
第２回四つ葉学園あいさつ運動



子どもたちが「学校に来てよかった。」と思える環境づくりを

学校教育課　指導主事　　佐藤　亜記

「教室に行きたいって気持ちはあるんだよ、本当は。でも、なんか行けないんだよね。これっていうはっきりした理由は自分でも分からないんだけど。」

別室登校をしていた生徒の言葉です。「学校に行きたい。勉強したい。仲間と一緒に活動したい。でも心と体がついていかない。」といった、もどかしい感情を表したこの言葉が今でも忘れられません。

十数年前、校内適応教室担当教員として別室登校生徒と関わる業務に就いていました。現在の校内教育支援センターです。教室環境も今ほど整っておらず、初めは学習机と椅子、鞄やコートを置く棚があるだけの殺風景な教室でした。しかし、子どもたちは学校の中で自分の居場所を求め、安全で、安心して過ごせる教室だと信じて毎日登校していました。そんな子どもたちの姿に心を動かされ、当時の管理職や同僚の先生方に協力してもらい、教室の中に掲示板を設置したり、ロッカーや棚、様々な道具をそろえたりして、少しでも教室らしくするための環境整備に没頭しました。また、学級担任や教科担任に少しでも子どもたちの学習支援や子どもとの関わりを持ってもらうため、職員室内に生徒一人ひとりの動静が分かるホワイトボードやファイル棚を設置し、足を運んでもらえるように工夫しました。

すると、次第に教室内の子どもたち同士の関わりが生まれ、異学年集団での係活動、当番活動が自然と行われるようになりました。生き生きと過ごす子どもたちの姿から、どの子も楽しく普通に学校生活を送りたいという切なる思いがあることを学びました。同時に、教職員は子どもたちの幸せのために最大限の努力をしなければならないと実感させられました。

現在、三条市では全ての学校に校内教育支援センター（SSR）を設置するとともに、不登校に係る支援員を配置しています。さらに今年度は、各校で適切なSSR運用が行われれるよう「SSR運用ガイドライン」を作成しました。「校内にいつでも利用できる安心して過ごせる教室」こそがSSRの目的です。何か不安や悩みを抱える子どもたちが、「学校に来てよかった。」と笑顔で話せる環境づくりのために、安心して利用できるSSRの運用を是非お願いいたします。

各学園の取組紹介

絆を深め　まちもきれいに
－「おおじまブラボーDay」－

三条おおじま学園



交流活動で仲良しに



縦割りｸﾞﾙｰﾌﾟで地域清掃活動

９月 29 日（火）に「おおじまブラボーDay」を実施しました。「地域に対する愛着と奉仕の心を育てる」「地域の連帯感を高める」「中学生のリーダーシップを小学生に見せることにより、小学生が中学生にあこがれる」「地域やPTA が小中一貫教育への関心を高める」ことを目的に、中学生が出身小学校を訪れ、小・中学生、地域の方や保護者が一緒になって奉仕活動に取り組む行事です。奉仕活動の前に、小学１年生から中学３年生までの縦割りの班で、絆を深める交流活動を行い、その後奉仕活動に取り組みました。須頃小学校では、小学校周辺のゴミ拾いをしました。例年よりも落ちているゴミの量が多く、このゴミ拾いの活動にやりがいを感じていました。大島小学校では、地域にある飲食店周辺のゴミ拾いや草取りを行いました。大島小学校は昨年度までとは違う活動でしたが、地域がきれいになっていくことに喜びを感じている様子でした。今回の活動を通して、地域のよさを再確認したり、お互いのつながりを感じたりすることができ、和やかな雰囲気の中で活動ができました。

しただの郷学園

ともに育てよう しなやかな力
－ 学園学校保健委員会 －

９月 29 日（火）、小学５・６年生と中学１年生および保護者や地域の方々約 20 名が出席して、学校保健委員会が開催されました。講師に新潟市スクールカウンセラーの 坂井　淳子 様をお迎えし、『困難に負けない力、心の回復力～レジリエンスを育てよう』をテーマにご講演いただきました。強い心とは単に耐えることではなく「落ち込んでも回復するしなやかな力」であることを学ぶことができました。

また、自分のネガティブな感情や口ぐせを受け止め、自分を励ます捉え方や、自分や友達の「強み」を発見して互いに認め合うグループワークに取り組みました。小学生と中学生が一緒にグループワークを行う場面では、緊張した面持ちの中、上級生がリードして活動を進める姿がありました。



新潟市カウンセラー　坂井　淳子 様のご講演



小学生と中学生が一緒にグループワーク

様々な場面での前後期生の交流
－ 後期課程体育祭 －

大崎学園



後期課程体育祭交流（前期生の応援：大崎学園グラウンド）



９月 27 日（日）、後期体育祭を行いました。

春の前期体育祭では、前期生は後期生からの応援にパワーをもらいました。今回は、前期生１～６年生が交替でグラウンドまで来て、各軍を激励する応援メッセージを放送し、その後間近で大声援を送りました。「いけー！！」「がんばれー！！」前期生の声援がグラウンドに響きます。後期生は、前期生からパワーをもらうとともに、後輩たちがあこがれるそんな姿を見せようと 120%の力で競技や応援に取り組んでいました。

科学教育センター NEWS！

第 66 回 三条市児童・生徒 科学研究発表交歓会 10 月 1 日(木)

10 月 1 日（木）、「中央公民館」および「まちやま」の二会場において、第 66 回三条市児童・生徒科学研究発表交歓会を開催いたしました。今回は 122 件の発表に対して、134 人もの児童・生徒が 15 の部会に分かれて研究成果を発表し合いました。

開会式では、熊倉教育長より、加茂市出身で「台湾植物学の父」と称される 早田　文藏 氏の信念と業績について紹介がありました。早田氏が発見・命名した台湾の植物は、1,600 種を超えたそうです。そして、この早田氏の問い続ける姿は、児童・生徒が「どうしてだろう」「本当にそうなのかな」という好奇心から研究を始める姿と同じであるという話がとても印象に残りました。児童・生徒の発表に向ける意欲が一層高まった瞬間になったと思います。

この発表交歓会を通して、児童・生徒の確かな成長の手応えを感じました。事後のアンケートでは、参加した児童・生徒の９割以上が「来年も参加したい」と回答していました。また、「指導の先生からいただいたアドバイスをもとに研究を続けていきたい」「〇〇さんの発表がとても参考になった」と記述した児童・生徒も多く、主体的な学びを深めることができました。

各校の教職員、保護者の皆様、児童・生徒の研究を価値付ける指導者の先生方など、地域全体での連携によって開催する本会は、児童・生徒の可能性を引き出す一つの貴重な場となっています。来年度以降も連携を強化し、児童・生徒の科学への芽を大切に育んでいきたいと考えています。



指導者との対話　～思考を広げる場～

教育センター研修ウォッチ！

先哲の技に学ぶ
－第6回・第7回三条学講座－

第６回「歴史講座２（ものづくりのまち三条のルーツを探る）」

９月 29 日(火) ９名の参加で実施しました。三条鍛冶道場事務局長の 池野 泰文 様からは三条鍛冶の成り立ちや三条金物の変遷などについて、生涯学習課文化財係の 勝山 百合 様からは三条市内の遺跡について講義をいただきました。その後、下田郷資料館に移動し、勝山様から、貴重な替え刃式の石器の武器や火焔型土器などの展示物の説明をいただき、実際に触れてみることができました。



三条鍛冶・遺跡の講義



展示物の見学

第７回「金物の話講座（三条刃物について）」

10 月 20 日(火)17 名の参加で実施しました。現代の名工、日野浦 司 様と三条鍛冶道場事務局長の池野 泰文 様との対談形式で、三条刃物の特長や製法と三条のものづくりの継承について語っていただきました。その後、体験場に場所を移し、日本の刃物製品の特長でもある、硬い鋼と柔らかい鉄を貼り合わせる「鍛接(たんせつ)」という技を日野浦様から実演していただきました。



三条刃物の講義



「鍛接」の実演

積極的な御活用を！
－オーダーメイド訪問－

10 月 27 日時点で、約 60 件のオーダーメイド訪問を行い、今年度中にあと約 10 件の要請をいただいています。学園単位での要請等も含め、ほとんどの学校で「２件以上」の訪問を行っており、中には 10 回を超える訪問を行っている学校もあります。本年度は、指導案作成に向けた相談や指導案検討の場面での要請で、複数回の訪問を行う「伴走型支援」が多くありました。また、Step 研修の授業公開と一緒に校内研修を行う場面や、校内研修での講話に対する要請をいただくことが多くありました。

オーダーメイド訪問を通して、一人一人の先生方の授業力向上が図られること（授業参観・協議会等を通した支援）と、各校の校内研究がさらに推進していくこと（校内研修・協議会での講話等）に、少しでもお力添えできるよう、引き続き努めていきます。今年度の研修の振り返りや次年度の校内研修に向けた訪問など、今からでも気軽に御相談ください。数多くの要請をお待ちしております。



指導主事による校内研修での講義



公開授業後の協議会